

新聞データベース活用

－新聞データベースは情報の宝庫－

仙台市立黒松小学校 教諭 今藤 正彦

<http://www.sendai-c.ed.jp/~sinbun17/>

キーワード：新聞データベース、N I E、情報活用能力

1. はじめに

各学校に校内 LAN が整備され、どの教室からもインターネットに接続できる環境が整ってきた。児童・生徒の調べ学習において、今やインターネットは不可欠である。しかし、Google 等の検索エンジンを使って本当に必要な価値ある情報を抽出し有効に活用するのは、なかなか容易なことではない。Web 上には、誰もが気軽に情報発信できるため膨大な情報が存在するが、不確かで無責任な情報や数年前の古い情報なども数多く、玉石混淆の状態である。

そこで大切になるのは、収集した情報を安易に鵜呑みにせず、情報の背景知識を基に複数の情報を比較検討し、自分の頭で主体的かつクリティカルに思考・判断できる力を養うことである。確かな情報源の一つとして活字メディアを代表する新聞のデータベースを有効に活用することにより、児童・生徒の情報活用能力の向上を図りたいと考える。

2. 新聞データベース活用の試み

新聞の教育利用は、N I E（エヌ・アイ・イー、「Newspaper in Education」の略）と呼ばれ、全国各地で広がりを見せている。新聞には、論理性、詳報性、一覧性、記録性、随時性、便覧性などのすぐれたメディア特性がある。さらに新聞データベースには、検索性、リンク性、速報性、電子的保存・加工性などのインターネット特性が加わっている。

宮城県 N I E 推進委員会小学校部会では、インターネットを利用した N I E 実践の可能性を探ることを目的として、平成 11 年 4 月に「N I E とインターネット」プロジェクトを発足した。平成 13 年 3 月までの 2 年間に、主に新聞データベースの活用を中心に研究実践に取り組んだ。

平成 11 年度は、仙台市立中山小学校 6 年 1 組において、河北新報社データベース（KD）の試用を行った。まず、9 月にインターネットで新聞社のホームページを自由に閲覧した後、各自テーマを決めて新聞記事の切り抜きを始めた。次に、11 月 18 日に河北新報社情報局の 2 名の方より、10 台のコンピュータを使ってデータベースのしくみと使い方を教えていただいた。その後、国語の学習として、児童が集めてきた切り抜きとデータベースで調べた記事を中心にし、考えたことや感想も含めて模造紙にまとめた。広く社会の出来事に目を向けさせることと、情報活用能力の育成を主なねらいとした。

本実践により、新聞記事の中には小学生にとって難解な語句があるものの、データベースそのものは高学年であれば調べ学習に十分活用できることが分かった。この学級では 2 か月間新聞記事の切り抜きをさせていたので、瞬時に目的の記事を検索できるデータベースの便利さを十分に実感できたようだ。また、地方紙だと地域の記事が豊富なので、Web ページでなかなか探せないようなことでも検索できた。

以下は、新聞データベースを利用した児童の感想である。

・私は新聞の切り抜きをしている時、「めんどくさい！」と思っていた。けど、データベースを使えばとても楽になった。これなら調べ学習などでも使えるし、本で調べるよりいろいろなことを知れると思った。これからも使いたい。学校で使えれば便利だと思った。あと写真をカラーにしてほしい。

・新聞を一つ一つ調べたらものすごい時間がかかることを、コンピュータではすぐやってしまうのでびっくりしました。それに、たくさんのデータが出てきてすごいと思いました。また使ってみたいです。

・記事が数秒で出てくるのはとても便利。だけど、キーワードをどういうふうに入れるか迷った。イメージで出てきた記事は、新聞のようにごちゃごちゃしていなかったの、とても見やすかった。古い順、新しい順に並んでいたので見つけやすかった。

・廃品回収に出してしまった新聞でも、記事を見返したりできるし、時間もあまりかからないので、調べたりする時にすごく便利だと思いました。いつか、新聞は配達じゃなくて、こういうふうに見られたら、見たい記事を素早く見られて便利になると思います。



写真 1 新聞記事を検索



写真 2 検索結果に大喜び



写真 3 模造紙にまとめる

3. 新聞データベースの活用提案

平成17年度、仙台市教育センター情報教育研究推進委員会に、新たに「新聞データベース部会」が設置された。現在小・中学校の教員5名により、新聞データベース活用の可能性を探っているところである。本部会では、河北新報社、読売新聞社、朝日新聞社の協力を得て、各社のデータベースを使い比べることができた。

■河北新報社の「KD（カーデー）」(図1)は、1991年8月からのニュースが蓄積されており、その数は140万件を超える。最大の特色は、ニュースを単なる文字だけでなく、新聞記事を切り抜いた状態で見られることで、写真・イラスト・図などを含めた記事全てを、新聞掲載時のままにイメージデータで再現している。

■読売新聞社の「スクールヨミダス」(図2)は、1986年9月からの全国版記事、1998年10月からの地域版記事、1989年9月からの英字紙「THE DAILY YOMIURI」記事を合わせて約380万件を収録している。また、縮刷版CD-ROMにより、紙面イメージ型データベースも利用できる。

■朝日新聞社の「朝日けんさくくん」(図3)は、1984年8月からの全国版記事、1997年からは地方版が全県(沖縄県を除く)収録されている。また、最新の天声人語や社説なども掲載されている。記事収録数は、約480万件である。

上記以外にも、新聞データベースのサービスを行っている新聞社は数多くある。

新聞データベースの長所は、豊富な情報量と情報内容の確かさ、過去に遡って時系列で検索可能なことなどにある。

本部会で11月7日に仙台市立五橋中学校2年生で行った国語の実践授業では、新聞の投書欄に着目した。生徒は、新聞データベースから検索した投書をもとに、自分の立場を明確にして意見文を書くことができた。

他にも、社会科や総合的な学習の時間における調べ学習などにおいて、新聞データベースは大いに活用可能である。また、教師の教材研究や資料収集にとっても役立つものである。

4. おわりに

新聞紙面には世の中の様々な情報が日々掲載され、「生きた教材」として私たちの知の欲求を満たし、生活に役立っている。そうした貴重な新聞記事がデータベース化され、簡単に検索できるようになったのは喜ばしいことである。しかし、児童・生徒や教師の中には、新聞データベースを知らない者も多い。また、その存在を知っていても、有料であることがネックとなり一度も使用したことがない者がほとんどである。

そこで、新聞データベースを確かな情報源の一つとして加え、児童・生徒の情報活用の実践力を高めていくことを推奨したい。新聞データベースの特性を理解することは、情報の科学的な理解を深めることになる。また、インターネット上の無責任な情報と比較して新聞データベースの情報の価値について考えたり、メディアの情報には発信者の意図と背景があることを理解したりすることは、情報社会に参画する態度を養うことにもなる。

児童・生徒が複数の新聞データベースから必要な記事を検索し、情報を主体的に読み解いて問題を解決し、知らせたいことを自分の言葉で発信していく、そのような姿を目指してさらに実践を積み重ねていきたいと考える。



図1 河北新報社「KD（カーデー）」



図2 読売新聞社「スクールヨミダス」

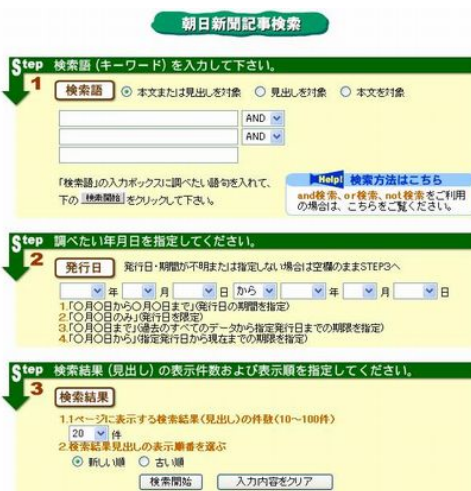


図3 朝日新聞社「朝日けんさくくん」